



北海道神経難病研究センター 平成30年度活動報告

第8号

(平成30年4月～平成31年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 平成30年度活動報告について
2. 北海道神経難病研究センターの概要
3. 平成30年度活動報告
 - (1) 神経難病臨床研究部門
 - (2) 神経難病リハビリテーション部門
 - (3) 神経難病看護・ケア部門
 - (4) 神経難病医療相談・福祉支援部門
4. 北海道神経難病研究センター主催講演会
 - (1) 第7回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
 - (2) 第6回神経難病緩和医療研究会講演会

1 平成30年度活動報告について

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成23年度活動報告、平成24年度活動報告、平成25年度活動報告、平成26年度活動報告、平成27年度活動報告、平成28年度活動報告、平成29年度活動報告に引き続き、平成30年4月～平成31年3月までの活動を平成30年度活動報告としてまとめました。

各部門での活動のほか、第7回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会、第6回神経難病緩和医療研究会講演会を報告した。

北海道神経難病研究センターの各部門での活動が徐々に活発となり、新しい神経難病医療社会の構築をめざし真摯に研究・支援に邁進したいと存じます。

これまでの多方面の方々からご支援賜りましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻下さりますよう、お願い致します。

平成31年4月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

2 北海道神経難病研究センター 概況

(1) 設置年度：平成 23 年 7 月 7 日

(2) 組織：北海道神経難病研究センター 最高顧問：田代邦雄

同 センター長・専務理事：森若文雄

同 代表理事：濱田晋輔

研究部門（主任研究者）：

- 1) 神経難病臨床研究部門（武井麻子、野中道夫）
- 2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一）
- 3) 神経難病看護・ケア部門（佐藤美和、佐々木暁子、清水恵美子、
三谷理子）
- 4) 神経難病関連（検査、薬剤、栄養）部門
（杉山和美、北條真之、石井いつみ）
- 5) 神経難病在宅医療・地域医療部門（本間早苗）
- 6) 神経難病医療相談・福祉支援部門（下川満智子）

(3) 事業

- 1) 神経難病医療に関する臨床医学的調査・研究
- 2) 神経難病に関するリハビリテーション研究
- 3) 神経難病に関する看護調査・研究
- 4) 神経難病医療とその関連諸部門の学際的調査・研究
- 5) 神経難病に関する地域・在宅医療調査、研究
- 6) 神経難病医療に関する患者を中心とした環境調査・研究
- 7) 第1号から第6号まで掲げる調査・研究に対する研究助成
- 8) 北海道における神経難病医療に関する諸交流の推進
- 9) 神経難病医療に関する研究者の育成
- 10) 神経難病医療に関する諸成果の刊行
- 11) 神経難病医療に関する研修会・講演会・シンポジウム等の開催
- 12) 神経難病医療調査・研究に関する文献等の収集及び閲覧
- 13) 北海道における神経難病医療調査・研究の受託
- 14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 平成30年度活動状況：

(1) 神経難病臨床研究部門

神経難病臨床研究部門は、医務部が各部と連携して活動している。新しい医療技術の導入、教育活動研修受け入れ、業績にわけて報告する。

【新たな医療技術の導入】

1. 医療技術

① Hybrid Assistive Limb (HAL®)

2018年は2017年から引き続き保険適応外疾患(SCD, PD, MSなど)のHAL®使用を継続し、その効用を調査研究している。

② 呼吸器、Lung insufflation capacity(LIC®)トレーナー、カフアシスト

野中診療部長の指導で医師、看護師、リハスタッフの呼吸不全に対するLIC®、カフアシストの技術を修練し、呼吸理学療法向上に寄与している。

③ 嚥下内視鏡

小西正訓先生(中村記念病院) 飯田有紀先生(北大リハビリテーション科：平成30年10月から当院職員)、藤田賢一STが担当し、嚥下療法の質を向上させ、誤嚥性肺炎の頻度が減少。外来でも評価可能です。

④ ボトックス

四肢痙縮や攣縮性斜頸の治療を施行しております。表面筋電図〔杉山和美技師〕の技術に支えられています。原則入院で施行しております。

【教育活動 研修受け入れ】

手稲溪仁会病院からの初期研修を引き受けており、当院の特徴を生かし、多職種による講義指導を企画している。

【業績】

【社会活動】

【検診・医療班派遣】

1. 濱田晋輔：平成30年度利尻礼文在宅難病患者訪問検診，稚内保健所，2018.8.9-

【医療講演会・シンポジウム】

1. 濱田晋輔：パーキンソン病の診断と治療、パーキンソン病を考える会 伊達赤十字病院、2018. 4. 26.
2. 濱田晋輔：パーキンソン病の診断と治療、パーキンソン病セミナー(函館市医師会病院 5F 講堂)、2018. 5. 8.
3. 田代 淳：神経内科クリニックにおけるパーキンソン病の診療経験. 大日本住友製薬株式会社社内講演会. 札幌, 2018.6.14.
4. 濱田晋輔：パーキンソン病に対する治療症例提示、パーキンソン病 Dr 's Area Meeting in 北海道、「TKK 札幌カンファレンスセンター」、2018. 6. 22.
5. 廣谷真 パーキンソン病における早期リハビリテーション介入の実際、第2回北海道パーキンソン病臨床研究会、北海道脳神経外科記念病院 5階カンファレンスルーム、2018. 7. 22.
6. 野中道夫：「高齢者の諸症状に対する漢方治療」、八雲地区連携学術勉強会、八雲遊楽亭, 2018.7.27
7. 武井麻子：「脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の治療」2018年ガイドラインと当院における治療の工夫, 第45回北海道難病連全道大会「脊髄小脳変性症友の会」, 国学院大学北海道短期大学(滝川), 2018.8.5
8. 野中道夫：「筋萎縮性側索硬化症の呼吸障害にどう対応すればよいのか」, 緩和医療研究会院内研修会, 北祐会神経内科病院, 2018.8.16
9. 野中道夫：高齢者の諸症状に対する漢方治療、優しく学べる漢方セミナーin 旭川 ホテル WBS グランド旭川、2018年9月7日
10. 野中道夫：「パーキンソン病と共に生きることを支援するために」, 白石区難病研究会, 白石区複合庁舎, 2018.9.25
11. 野中道夫：「パーキンソン病と共に生きることを支援するために」, 平成30年度西区内介護支援専門員対象研修, 西区民センター, 2018. 10. 16
12. 田代 淳：誤嚥はなぜ起きる？嚥下のしくみを知ろう. 第5回 SKY サロン. 札幌, 2018.10.18
13. 野中道夫：「高齢者の諸症状に対する漢方治療：パーキンソン病の治療から学ぶ」, 苫小牧地区医師会漢方学術講演会, ホテルウィングインターナショナル苫小牧, 2018. 11. 8
14. 野中道夫：「パーキンソン病の精神症状にどう対応するか」, 北祐会神経内科病院サロンあうる, 北祐会神経内科病院, 2018. 11. 9

15. 本間早苗：平成 30 年度第 1 回難病及び小児慢性特定疾患に関する指定医研修「臨床調査個人票作成の講演」，北海道保健福祉部健康安全局地域保健課，ACU-A（札幌），2018. 11. 18
16. 田代 淳：ファシリテーター．ケースカンファレンス 1「認知症」．第 36 回日本神経治療学会学術集会，東京，2018.11.23
17. 野中道夫：筋萎縮性側索硬化症の医療において今できることはなにか
盛岡 ALS 医療連携の会 エスポワール岩手、2019. 1. 9
18. 廣谷 真：パーキンソン病診療における最近の知見 ～ロチゴチンの有用性～
北見パーキンソン病講演会 ホテルベルクラシック北見、2019. 2. 4
19. 濱田晋輔：当院における CIDP 治療、北海道 CIDP 学術講演会 札幌プリンスホテル 国際館パミール（札幌）、2019. 3. 16
20. 本間早苗：平成 30 年度第 2 回難病及び小児慢性特定疾患に関する指定医研修「臨床調査個人票作成の講演」，北海道保健福祉部健康安全局地域保健課、札幌市保健所 5 階講堂（札幌），2019.3.10

【学会報告】

【国際学会発表】

1. Tashiro J. : A case with cognitive impairment, oculomotor dysfunction and parkinsonism. Parallel session: How to diagnose and treat atypical parkinsonism, Small Conference for Young Neurologist. ‘Takamatsu’ International Symposium for Parkinson Disease and Movement Disorders in Tokyo. Tokyo, February 24, 2018.
2. Tashiro J, Ohtsuka H, Hirotsu M, Hamada S, Soma H, Nonaka M, Honma S, Hamada K, Takei A, Moriwaka F, Tashiro K. Characteristics of leg tremors on standing in primary orthostatic tremor and Parkinson’s disease. 22nd International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. Hong Kong, October 5-9, 2018.

【全国学会発表】

1. Tashiro J, Ohtsuka H, Hirotsu M, Hamada S, Soma H, Nonaka M, Honma S, Hamada K, Takei A, Moriwaka F, Tashiro K : Characteristics and diagnosis of leg tremors in primary orthostatic tremor and Parkinson’s disease. 第 59 回日

本神経学会学術大会, 札幌, 2018.5.23

2. 武井麻子：ロボットスーツ HAL[®]介入前後の歩行分析による脊髄小脳変性症の運動学習機能の評価. 第 59 回日本神経学会総会. (札幌) 2018.5.25.
3. 田代 淳, 大塚裕之, 廣谷 真, 濱田晋輔, 相馬広幸, 野中道夫, 本間早苗, 濱田啓子, 武井麻子, 森若文雄, 田代邦雄：Orthostatic tremor およびパーキンソン病における立位で下肢に出現する振戦に関する検討. 第 12 回 MDSJ, 京都, 2018.7.5
4. Tashiro J. : Discussant. The Cross Finger Meeting between Korea and Japan, Fukuoka, Japan, December 1, 2018.
5. Tashiro J, Ohtsuka H, Hirotani M, Hamada S, Soma H, Nonaka M, Honma S, Hamada K, Takei A, Moriwaka F, Tashiro K : Clinical and electrophysiological characteristics of leg tremors in primary orthostatic tremor and Parkinson's disease. Takeda Parkinson's Disease Symposium. Tokyo, January 12, 2019.

【地方会発表】

1. 武井麻子：ロボットスーツ HAL の保険適応外疾患への効果、第 104 回日本精神神経学会北海道地方会、北海道大学医学部学友会館「フラテ」ホール、札幌、2019. 3. 2

【研究業績】

著書・総論

1. 太田圭介, 森若文雄：III パーキンソン病の歩行訓練, パーキンソン病への評価とアプローチ, リハージュ 6 : 29-33、2018
2. 田代 淳：手指屈筋反射 (Wartenberg 反射, Trömner-Hoffmann 徴候). 神経内科 88(1): 99-102, 2018. (2018 年 1 月)
3. 田代 淳：ジスキネジア. 運動症状, 治療上の問題点と対策. パーキンソン病 — 基礎・臨床研究のアップデート— (第 2 版). 日本臨床 76 巻増刊号 4, p. 585-590, 2018. (2018 年 5 月 28 日発行)
4. 田代 淳：Beevor 徴候. 脊椎脊髄ジャーナル 32(1) :000-000, 2019. (2018 年 12 月 25 日発行)

原著

1. Tamura I, Takei A, Hamada S, Soma H, Nonaka M, Homma S, Moriwaka F.: Executive dysfunction in patients with spinocerebellar ataxia type 3. J Neurol 265(7):1563-1572, 2018

2. Wakerley BR, Hamada S, Tashiro K, Moriwaka F, Yuki N : Overlap of acute mydriasis and acute pharyngeal weakness associated with anti-GQ1b antibodies. Muscle Nerve 57(1) E94-E95.2018

(2) 神経難病リハビリテーション部門

理学療法領域、言語聴覚療法領域、作業療法領域別に活動を報告し、神経難病に関わるセラピストの座談会、北海道神経難病ケースカンファレンスと 2018 年度 HAL 実績(北祐会神経内科病院)を記載する。

【理学療法領域】

【学会報告】

1. 坂野 康介:失調性歩行に対する HAL トレーニングの経験 ～歩行中動揺に対する定量的評価の試み～」 第 59 回日本神経学会 2018/5/25
2. 小林 阿佑美:呼吸不全を伴う ALS 患者に対する HAL を使用したサイバニクス治療の検討, 第 59 回日本神経学会 2018/5/25
3. 畑中 茉紀:遠位型ミオパチー症例に対する HAL 治療が行動意欲に与える影響, 第 59 回 日本神経学会 2018/5/25
4. 太田 経介:すくみ足からの脱却を目指したパーキンソン病の一症例 現象学的解釈の試み」 第 1 回リハビリテーションのための姿勢運動制御研究会 2018/9/15
5. 坂野 康介:バランス障害を呈した脊髄小脳変性症症例に対する Mini-Balance Evaluation System Test を用いた理学療法介入の一例, 第 16 回日本神経理学療法学会学術集会 2018/11/10, 11
6. 太田 経介:脊髄小脳変性症患者における Mini-BESTest を用いたバランス能力と歩行重症度との関連性, 第 16 回日本神経理学療法学会学術集会 2018/11/10, 11
7. 西海 颯一郎:SCD 患者の歩行への HAL とリハの効果, 第 4 回 北海道ロボットスーツ HAL 研究会講演会 2018/11/10
8. 鹿野 咲:肺部分切除した筋強直性ジストロフィー患者の呼吸機能経過と外来リハビリでの関わり, 第 39 回札幌市病院学会 2019/2/2
9. 松本 悠希:破局的思考を持つパーキンソン病患者の腰痛に対する心理的側面からの介入について, 第 39 回札幌市病院学会 2019/2/2

10. 古賀 香奈江:パーキンソン病患者と理学療法士の歩行安定性に対する主観の調査,
第 39 回札幌市病院学会 2019/2/2

【研究業績】

著書・総論＜執筆

1. 太田 経介:小刻み、加速・突進歩行に対する理学療法, Rehaje 6 : 31-37、2018.
2. 中城 雄一・坂野 康介:Ⅲ-2 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を含む)、小森哲夫
監修、田中勇次郎、南雲浩隆、望月 久編集、改訂第2版神経難病領域のリハビリテ
ーション実践アプローチ p192-209, 228-281, 2019、メジカルビュー社(東京)

【教育・講義】

1. 坂野 康介:神経難病のリハビリテーション, 札幌医学技術福祉歯科専門学校
2018/4/12、4/17、4/23、5/10、6/29、6/25
2. 重岡 千夏:神経難病のリハビリテーション, 北海道リハビリテーション大学校
2018/11/12、11/19
3. 小林 阿佑美:神経難病のリハビリテーション, 札幌リハビリテーション専門学校
2018/12/20

【講演】

- 1 木村直子:神経難病の呼吸リハの基礎、北海道神経難病研究センター緩和医療研究
会 2018/10/18
- 2 中城 雄一:パーキンソン病のリハビリテーション、北海道理学療法士会空知支部
学会、2018/11/11
- 3 中城 雄一: LIC TRAINER 北祐会の取り組み、LIC TRAINER ユーザー研修会、
2018/11/25
- 4 太田 経介:すくみ足からの脱却を目指したパーキンソン病の一症例-認知行動療
法のみ-、医療法人新さっぽろ脳神経外科病院リハビリテーション科研修会 2018/12/7
- 5 中城 雄一・太田 経介・:歩行のリハビリテーション、北海道高等盲学校理療研
修センター 2018/12/9
- 6 中城 雄一・坂野 康介、高藤 愛海:パーキンソン病のリハビリテーション、
札幌ひばりが丘病院リハビリテーション部研修会 2019/2/23

【検診】

- 1 坂野康介：利尻・礼文地区難病検診、利尻島、礼文島 2018/8/8～8/10
- 2 高藤 愛海：根室地区難病医療相談会 中標津町、2018/9/22

【研修受け入れ】

- 1 2018/12/20～21 大日本住友製薬 医療機器を用いたリハビリ見学 各2名
- 2 2019/01/26 国立精神・神経医療研究センター病院 MS リハビリ見学 3名
- 3 2019/3/11：武田薬品ホスピタルトレーニングリハビリ見学 8名
北海道札幌視覚支援学校 理療研修センター リハビリ見学・治療体験 2019/3/13
4 5/16, 17 6/13, 14 7/18, 19 10/17, 18 11/14, 15 計10回：北海道札幌視覚支援学校 理療研修センター マッサージ実施研修述べ20名

【社会活動・ボランティア】

- 1 坂野 康介・西海 顕一郎・角 翔太：二十四軒東連合町内会健康フェスタ、2018/7/8
- 2 坂野 康介：二十四軒健康まつり、2018/8/31
- 3 重岡 千夏：札幌市立福移中学校総合実習（紙面回答）、2018/10
- 4 中城 雄一・坂野 康介・五十嵐 碧：パーキンソン病とともに歩む会、2018/11/2
- 5 坂野 康介：ニュー琴似マンション介護予防教室、2018/12/18「

【臨床実習受入】

- | | |
|-------------------|----|
| ・ 朝日医療大学校 | 1名 |
| ・ 太田医療技術専門学校 | 1名 |
| ・ 札幌医学技術福祉歯科専門学校 | 4名 |
| ・ 札幌リハビリテーション専門学校 | 1名 |
| ・ 帝京平成大学 | 2名 |
| ・ 東京医療学院大学 | 1名 |
| ・ 東北文化学園大学 | 1名 |
| ・ 日本医療大学 | 1名 |
| ・ 文京学院大学 | 2名 |

・ 北海道科学大学	1 名
・ 北海道大学	1 名
・ 北海道千歳リハビリテーション学院	2 名
・ 北海道文教大学	2 名
・ 北海道リハビリテーション大学校	4 名
・ 臨床福祉専門学校	1 名

【2018 年度 HAL 実績（北祐会神経内科病院）】

筋萎縮性側索硬化症	・ ・ ・ ・ ・	1 件
運動ニューロン疾患	・ ・ ・ ・ ・	1 件
球脊髄性萎縮症	・ ・ ・ ・ ・	3 件
脊髄性筋萎縮症	・ ・ ・ ・ ・	4 件
シャルコー・マリー・トゥース病	・ ・ ・	3 件
筋強直性ジストロフィー	・ ・ ・ ・ ・	5 件
肢体型筋ジストロフィー	・ ・ ・ ・ ・	2 件
進行性筋ジストロフィー	・ ・ ・ ・ ・	2 件
封入体筋炎	・ ・ ・ ・ ・	2 件
ネマリンミオパチー	・ ・ ・ ・ ・	1 件
視神経脊髄炎	・ ・ ・ ・ ・	2 件
パーキンソン病	・ ・ ・ ・ ・	1 件
進行性核上性麻痺	・ ・ ・ ・ ・	3 件
脊髄小脳変性症	・ ・ ・ ・ ・	16 件
多発性硬化症	・ ・ ・ ・ ・	2 件
脳性麻痺	・ ・ ・ ・ ・	2 件
合計	・ ・ ・ ・ ・	50 件

2018 年度 HAL 実績（札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック）

筋萎縮性側索硬化症	・ ・ ・ ・ ・	1 件
シャルコー・マリー・トゥース病	・ ・ ・	2 件
進行性筋ジストロフィー	・ ・ ・ ・ ・	2 件

脊髄小脳変性症 2 件

合計 7 件

平成 30 年度は延べ 50 件の HAL 治療を行なった。50 件の内訳のうち、上位 10 疾患までが診療報酬適応疾患で 50 件中 24 件であった。

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニックの実績も合わせると 57 件中 29 件が診療報酬適応疾患となり、その他の疾患では脊髄小脳変性症が延べ 18 件と最も多く実施していた。

【言語聴覚療法領域】

【学会報告】

1. 藤田 賢一:dystonic tremor を伴う SCA におけるボツリヌス毒素 A による嚥下機能への治療効果, 第 59 回日本神経学会, 2018/5/25
2. 小田柿 糸子:攣縮性斜頸を伴う SCD 患者の嚥下障害に対する嚥下内視鏡検査を用いた介入について」第 59 回日本神経学会, 2018/5/25
3. 小玉 唯:導入後半年間の当院における LIC トレーニング, 第 1 回 LIC TRAINER 研究会, 2018/11/25
4. 大月 春奈:食物を使用した咀嚼訓練にて食塊形成が向上したパーキンソン病患者の一症例, 第 39 回札幌市病院学会, 2019/2/2
5. 佐藤 高大:軟口蓋挙上装置を使用し構音障害軽減、活動面改善を認めた筋萎縮性側索硬化症の一症例, 第 39 回札幌市病院学会, 2019/2/2

【研究業績】

著書・総論

1. 藤田 賢一: III-2 脊髄小脳変性症 言語療法 摂食嚥下障害, 小森哲夫監修、田中勇次郎、南雲浩隆、望月 久編集、改訂第 2 版神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ p218-224、2019、メジカルビュー社（東京）改訂第 2 版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ

【教育・講義】

1. 藤田 賢一:嚥下のトラブルこれで解決!, 第 59 回日本神経学会学術大会 市民公開講座 2018/5/24
2. 檜村 祐哉:言語聴覚士と仕事」北海道医療大学オープンキャンパス, 2018/6/17
3. 大月 春奈:言語聴覚士と仕事, 北海道医療大学 オープンキャンパス , 2018/8/5
4. 須貝 英理、小玉 唯: ごえん予防のお話し 嚥下体操をやってみよう, あうるサロン vol.8 2018/10/5
5. 檜村 祐哉:嚥下評価における当院の取り組み(呼吸機能について, 嚥下会 2018/10/12
6. 佐藤 高大:Cough peak flow の評価～当院の取り組み～, 嚥下会 2018/10/12
7. 大月 春奈:パーキンソン病の咀嚼機能について, , 嚥下会 2018/10/12
8. 須貝 英理:パーキンソン病に対するリハビリテーションについて, 平成 30 年度西区区内介護支援専門員対象研修 神経難病について 2018/10/16
9. 須貝 英理:誤嚥性肺炎の予防と飲み込みトレーニング, 琴似二十四軒地区福祉のまち推進センター交流研修会 2018/11/10
10. 小玉 唯:さあ! 腹の底から声を出してみよう, パーキンソン病とともに歩む会 2018/12/2
11. 藤田 賢一:パーキンソン病の言語療法, 札幌ひばりが丘病院リハビリテーション部研修会 2019/2/23
12. 小田柿 糸子:「伝える」をあきらめない ～人工呼吸器装着下のコミュニケーション支援～、第 6 回神経難病緩和医療研究会講演会 2019/3/9

【検診】

藤田 賢一:北海道総合在宅ケア事業 苫前町 2018/5/29, 30、7/17, 18、9/20, 21、11/26, 27、2019/1/21, 22、3/18, 19

【研修受け入れ】

1. 三本柳かんのクリニック クリニック言語療法見学 2018/8/17
2. 大日本住友製薬医療機器を用いたリハビリ見学 各 2 名 2018/12/20, 21
3. 札幌宮の沢脳神経外科病院 新谷葵先生 リハビリ見学 2019/1/24
4. 国立精神・神経医療研究センター病院 MS リハビリ見学 2019/1/26 3 名
5. 武田薬品ホスピタルトレーニング リハビリ見学 8 名 2019/3/11

【社会活動・ボランティア】

- 1 熊谷 隆人・小玉 唯・須貝 英理:二十四軒東連合町内会健康フェスタ, 2018/7/8
- 2 藤田 賢一・小玉 唯・大月 春奈:パーキンソン病とともに歩む会, 2018/12/2
- 3 大月 春奈・佐藤 高大・吉澤 春香:北海道難病連チャリティークリスマス, 2018/12/9

【臨床実習受入】

- ・ 京都学園大学 1 名

【作業療法領域】

【学会報告】

1. 本間 冬真:スクリーニング検査のデータから考える Machado-Joseph 病の認知機能障害の傾向, 第 59 回日本神経学会学術大会 2018/5/25
2. 尾野 日香:環境調整により新聞読みの再獲得できた進行性格上性麻痺の一症例, 第 49 回北海道作業療法学会、2018/6/9
3. 山野 遥香:多系統萎縮症患者の歩行器操作能力向上への取り組み～高次脳機能評価の重要性～、札幌市病院学会 2019/2/2

【研究業績】

著書・総論

1. 徳永典子:Ⅲ-2 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を含む)、小森哲夫監修、田中勇次郎、南雲浩隆、望月 久編集、改訂第 2 版神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ p192-209,228-281,2019、メジカルビュー社(東京)
2. 加藤恵子:脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を含む)、小森哲夫監修、田中勇次郎、南雲浩隆、望月 久編集、改訂版神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ p224-228, 2019、メジカルビュー社(東京)

【教育・講義】

1. 馬道 健弘:「生活の質を高めるポジショニング」平成 30 年度介護職員専門研修 I 2018/6/7
2. 小室 祐子:神経難病について パーキンソン病のリハビリテーション, 平成 30 年度

西区内介護支援専門員対象研修 2018/10/16

3. 馬道 健弘:生活の質を高めるポジショニング, 平成 30 年度介護職員専門研修 I
2018/11/1
4. 小室 祐子・鶴田 知也:パーキンソン病のリハビリテーション, 札幌ひばりが丘病
院リハビリテーション部研修会 2019/2/23
5. 高橋 美博:パーキンソン病における在宅での転倒とリハビリテーション, 第 2 回
地域リハビリを学ぶ会 2019/3/14

【研修受け入れ】

1. 大日本住友製薬医療機器を用いたリハビリ見学 各 2 名 2018/12/20, 21
2. 国立精神・神経医療研究センター病院 MS リハビリ見学 3 名 2019/01/26
3. 武田薬品ホスピタルトレーニング リハビリ見学 8 名 2019/3/11

【社会活動・ボランティア】

1. 相馬大介:鉄西地区社会福祉協議会主催ウォーキング大会 2018/5/31
2. 馬道 健弘・本間 冬真・有馬 恭平・鶴田 知也:二十四軒東連合町内会健康フェ
スタ」 2018/7/8
3. 馬道 健弘「二十四軒健康まつり, 2018/8/31
4. 馬道 健弘「二十四軒東第 10 町内会 運動指導, 2018/9/20
5. 馬道 健弘「山の手元気塾 運動指導, 2018/10/18
6. 馬道 健弘「二十四軒東第 10 町内会 運動指導, 2018/11/29
7. 馬道 健弘「山の手元気塾 運動指導 2019/1/24
8. 小室 祐子・本間 冬真:パーキンソン病と共に歩む会, 2018/12/2

【臨床実習受入】

札幌医学技術福祉歯科専門学校	1 名
日本医療大学	1 名
北海道文教大学	1 名
北海道リハビリテーション大学校	1 名

(3) 神経難病看護・ケア部門

院外、院内研究会参加、看護部教育、認定看護師研修、対外活動を報告する。

1. 研究会参加状況

院外研修

日 時	研修テーマ	主 催	参加者
H30 年 5 月 15 日	第 17 回北海道口腔ケアセミナー	日本老年歯科医学会北海道支部主催研修会	1 名
H30 年 5 月 15 日	退院支援の基礎知識	北看協	3 名
H30 年 6 月 5 日	認知症ケア—対象者を深く理解するために	北看協	1 名
H30 年 6 月 14 日 ～15 日 11 月 17 日	看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）を活用した施設内教育～自施設の	北看協	2 名
H30 年 6 月 30 日	説明責任がはたせる、患者・利用者志向型システムフォーカスチャータニング Version3 [®] 2018	日本フォーカスチャータニングヘルスケアマネジメント	2 名
H30 年 7 月 11 日	現場に活かせるリスクマネジメント基礎編	北看協	1 名
H30 年 7 月 13 日	看護倫理—看護で大切なことは何か—	北看協	3 名
H30 年 7 月 21 日	備えよう！組織で取り組む災害対策	北看協 第 2 支部	1 名
H30 年 7 月 26 日 ～27 日	看護管理 I —看護管理のはじめの一步—	北看協	1 名
H30 年 8 月 4 日	地域医療連携と療養支援	北海道難病医療ネットワーク連絡	1 名

		協議会	
H30 年 8 月 8 日 ～9 日	その人らしい最期を迎えるために	北看協	2 名
H30 年 8 月 18 日	感情コントロールが苦手な人の理解とかかわり方について	北看協 第 2 支部	1 名
H30 年 8 月 30 日 ～31 日	現場で活かせる感染管理	北看協	2 名
H30 年 9 月 1 日	カンフォータブル・ケアで変わる認知症看護	北看協 第 1 支部	1 名
H30 年 9 月 4 日 ～5 日	今こそベテランナースを活かすときー自己の強みをより発揮できるためにー	北看協	2 名
H30 年 9 月 18 日	医療・福祉における環境サービスセミナー & 欧米の感染対策見聞録	滅菌・感染 対策研究会	4 名
H30 年 10 月 2 日 ～3 日① H30 年 10 月 4 日 ～5 日②	家族看護～家族の理解を深めよう	北看協	①1 名 ②1 名
H30 年 12 月 6 日	摂食・嚥下障害ケアの基本を学ぼう	北看協	1 名
H31 年 2 月 16 日	40 歳代からの不調にどうかかわるか？ どう付き合うか？	北看協 第 2 支部	2 名
H31 年 2 月 23 日	第 4 回 CV ポート地域医療セミナー	イムス札幌 消化器中央 総合病院	5 名

19 コース 述べ 34 人

院内研修

日 時	研修テーマ	講 師	主 催	参加数（看護 職/全体）
H30 年 4 月 11 日	H30 年度診療報酬改定の概要	矢野 千里（医事課）	総務部医事課 医安全	13 名/68 名

H30 年 5 月 22 日	スキンテアについて	矢瀬 邦晴 (smith&nephew)	褥瘡管理委員会 医安全	13 名/59 名
H30 年 6 月 8 日	輸血用血液製剤の取り扱いと副作用	平塚 紘大 (認定輸血検査技師) (日本赤十字社北海道ブロック)	看護部 医安全	22 名/51 名
H30 年 7 月 31 日	A L S と診断した時、何をどう伝えれば良いのか、A L S の治療はどうするのか	三本 博 (コロンビア大学神経学研究所 A L S センター)	北海道神経難病研究センター 田辺三菱製薬	
H30 年 8 月 2 日	アレルギー歴の確認マニュアル	北條 真之氏(薬剤師)	医療安全委員会	5/41
H30 年 8 月 8 日	円山地区骨粗しょう症連携セミナー	小熊 大士(札幌円山整形外科病院副院長)	(株)旭化成ファーム	
H30 年 8 月 16 日	筋萎縮性側索硬化症の呼吸障害にどう対応すればよいのか	野中 道夫	神経難病緩和医療研究会 医安全	18/72
H30 年 9 月 11	院内感染対策研修 標準予防策 尿留置カテーテルの取り扱い	ICT/ICM/ 感染リンクナース	院内感染対策委員会 感染制御部 感染リンクナース	24 /79
H30 年 10 月 18 日	神経難病の呼吸リハの基礎	木村 直子氏 (PT)	神経難病緩和医療研究会 医療安全委員会	8/49

H31年2月8日	チーム対抗個人情報○×クイズ	個人情報委員会	個人情報委員会 医療安全委員会	8/37
H31年3月5日	低栄養からの離脱～注意すべきこと～	関野 敬太氏(株大塚製薬)	栄養管理委員会 医療安全委員会	12/49
H31年3月12日	手指衛生とアンケート結果	藤田 恵巳子氏(看護師)	院内感染対策委員会 感染制御部	15/51
H31年3月13日	Lee Silverman Voice Treatment (LSVT) ®LOVD/BIGの紹介	坂野 康介氏 (PT) 太田 経介氏 (PT) 靄田 知也氏 (OT) 檜村 祐哉氏 (ST)	リハビリテーション部 医療安全管理委員会	1/39

13 コース

看護部教育

日 時	研修テーマ	参加者	担 当
2018年8月1日	ラダーⅡ 救急看護（演習）	2名	教育委員
2018年10月	ラダーⅡ ケーススタディ 退院支援と患者さまへの関わり	2名	教員委員
2019年2月7日 3月6日	ラダーⅡ プリセプター研修	2名	教育委員

認定看護師

日 時	研修テーマ	主催	受講者
H31年1月10日 2月18日	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	北看協	1名

2. 対外活動

(イベント)

H30 年 7 月 8 日	健康フェスタ	二十四軒東連合町内会 北祐会神経内科病院	1 名
---------------	--------	-------------------------	-----

(実習受け入れ)

年 月 日	学校名 実習内容	受入数
H30 年 10 月 23 日・ 24 日	天使大学 1 年 基礎看護学臨地実習 I 看護ケア提 供システム論	4 名
H30 年 10 月 30 日・ 31 日	天使大学 1 年 基礎看護学臨地実習 I 看護ケア提 供システム論	5 名
H30 年 6 月 26 日 ～7 月 12 日	札幌保健医療大学 3 年 高齢者看護	6 名
H30 年 10 月 2 日 ～18 日	札幌保健医療大学 3 年 高齢者看護	6 名
H30 年 8 月 20 日 ～30 日	北海道科学大学 4 年 看護総合実習	4 名

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門 (下川 満智子)

検診、医療相談、サロン活動、研修参加および講義を行った。

1. 検診

月 日	参加者	名 称
H30 年 8 月 8 日 ～10 日	小林 陽子	平成 30 年度神経難病患者訪問検診 ～礼文町、利尻町、利尻富士町 (稚内保健所利尻支所)

2. 医療相談会 (相談員としての協力)

月 日	参加者	名 称
H31 年 2 月 2 日 札 幌	小林 陽子	平成 30 年度 札幌市難病医療相談会 ～テーマ ベーチェット病についての福祉相談 (札幌市難病患者等医療相談事業)

3. 神経難病患者さんと支える人のためのサロン活動（院内）

月 日	名 称
H30 年 7 月 6 日 (患者・家族向け)	第 6 回 サロンあうる テーマ：楽しく食べる～今日からできるひと工夫～ 参加者：計 12 名
H30 年 11 月 9 日 (在宅療養支援者向け)	第 7 回 サロンあうる 講義テーマ：精神症状のあるパーキンソン病の日常 参加者：計 16 名
H30 年 10 月 5 日 (患者・家族向け)	第 8 回 サロンあうる テーマ：楽しく食べる～見て・聞いて・体験してごえんを予防しよう～ 参加者：計 4 名
H31 年 1 月 11 日 (在宅療養支援者向け)	第 9 回 サロンあうる 講義テーマ：ALS について 参加者：計 12 名
H31 年 3 月 8 日 (在宅療養支援者向け)	第 10 回 サロンあうる 症例報告＋意見交流会 参加者：計 14 名

4. 研修会

月 日	参加者	名 称
H30 年 5 月 15 日 札 幌	下川 満智子	退院支援の基礎知識 (北海道看護協会)
H30 年 5 月 15 日 札 幌	下川 満智子 中山 宰歌 河野 光香 近藤 みずき	札幌市西区における、今後の医療連携を考える 平成 30 年度在宅医療介護連携推進に係る啓発等 事業 多職種連携意見交換会 第 226 回西区在宅 ケア連絡会・例会

H30 年 5 月 26 日 札 幌	下川 満智子 河野 光香	医療介護ダブル改定 入退院支援対応セミナー (札幌地域医療連携研究会)
H30 年 6 月 9 日～10 日 札 幌	小林 陽子 中山 宰歌 河野 光香 近藤 みずき	第 61 回北海道医療ソーシャルワーク学会 「地域に根ざした医療ソーシャルワーカーの課題」
H30 年 7 月 19 日 札 幌	下川 満智子	「クレーマー・モンスターペイシェントの対応方法と医療情報の取り扱い」(札幌市西区民間病院連携協議会)
H30 年 8 月 4 日 札 幌	小林 陽子 中山 宰歌 近藤 みずき	平成 30 年度 難病医療研修会 「地域医療連携と療養支援」 (北海道難病医療ネットワーク連絡協議会)
H30 年 10 月 24 日 札 幌	小林 陽子 近藤 みずき	最後まで家で暮らすための訪問看護の役割 (札幌市社会福祉協議会)
H30 年 11 月 3 日 ～4 日 札 幌	小林 陽子 中山 宰歌 河野 光香 近藤 みずき	全国難病センター研究会 第 30 回研究大会 (全国難病センター研究会)
H30 年 11 月 17 日 札 幌	小林 陽子 河野 光香 近藤 みずき	平成 30 年度 中央 E 支部事例検討会 (北海道医療ソーシャルワーカー協会中央 E 支部)
H30 年 11 月 29 日 札 幌	小林 陽子 河野 光香 近藤 みずき	重症心身障がい者の在宅ケア座談会 ～ずーっと地域で暮らし続けるを支えるために～ (札幌市自立支援協議会／重度障がいに関するプロジェクト)
H30 年 12 月 8 日 札 幌	近藤 みずき	入退院を繰り返す事例を通した 3 職種連携 3 団体合同研修会 (北海道 OT/CM/SW 協会)
H30 年 12 月 13 日 札 幌	小林 陽子	多職種連携で困っている人を受入れる優しい体制をどう作るか 第 226 回西区在宅ケア連絡会・例会
H30 年 12 月 15 日 札 幌	近藤 みずき	高次機能障害リハビリテーション講習会 「ブレーキのきかないその感情これって性格？障

		害？」 北海道高次機能障害リハビリテーション講習会実行委員会
H30 年 12 月 22 日 札 幌	小林 陽子 中山 宰歌 河野 光香 近藤 みずき	第 1 回北海道医療ソーシャルワーカー協会全道大会 ー自己決定の再考～スローガン実践からの脱却 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
H31 年 2 月 1 日 札 幌	近藤 みずき	変わる療養の選択、介護医療院の実際とは (北海道医療ソーシャルワーカー協会中央 B 支部)
H31 年 2 月 2 日 札 幌	中山 宰歌 河野 光香 近藤 みずき	実践的スーパービジョンを学ぶ (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
H31 年 2 月 9 日 札 幌	小林 陽子	人権感覚の醸成と実習指導 (北海道医療大学看護福祉学部 FD セミナー)
H31 年 2 月 16 日 札 幌	小林 陽子	ソーシャルワーク専門職の養成に関する社会的動向と展望 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 北海道ブロック

5. 講義・講演

月 日	参加者	名 称
H30 年 10 月 24 日	下川 満智子	天使大学看護学生講義 ～地域医療支援部の役割について
H30 年 10 月 31 日	下川 満智子	天使大学看護学生講義 ～地域医療支援部の役割について
H30 年 12 月 22 日	小林 陽子	第 1 回北海道医療ソーシャルワーカー協会全道大会 ー自己決定の再考～スローガン実践からの脱却 神経難病領域における自己決定の現状と課題 (シンポジスト)
H31 年 3 月 11 日	小林 陽子	武田製薬ホスピタルトレーニング 「パーキンソン病の患者様が使える医療制度と療養相談」

4. 北海道神経難病研究センター主催講演会

(1) 第7回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会、その他の活動

北海道神経難病リハビリテーション研究会は、神経難病と神経難病に対するリハビリテーションの知識と技術の向上、神経難病リハビリテーションのエビデンスの構築、神経難病にかかわるセラピストのネットワークの構築を目的とし、研究会目的達成のため、神経難病リハビリテーションに関する講演会を年1回開催している。

第7回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会は平成30年11月4日（日）10：00～13：00、西野学園 札幌医学時術福祉歯科専門学校にて「私たちにもできる！難病患者・家族へ寄り添う心理的ケア」をテーマに2講演を企画し開催した。

講演1は、国立病院機構新潟病院臨床研究部 臨床心理・遺伝カウンセリング室の後藤清恵先生（臨床心理士・室長）に「難病患者・心理的理解とケア、その考え方」をテーマに講和を頂いた。

講演2は、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 医療連携福祉相談室の花井亜紀子先生（副看護師長）に「難病患者の気持ちに寄り添う心理的ケアの取り組み」をテーマに講和を頂いた。



講演会場風景

112 名が参加され、アンケート集計（回収数 95 枚 回収率 84.8%）では
Q 今後取り上げて欲しいテーマには、

- ・ 神経内科のチームアプローチ
- ・ 難病患者からの声を聞きたい
- ・ 在宅生活に有用な福祉機器やサービス内容の実例の紹介
- ・ 難病に関わるスタッフの育成とケア
- ・ 難病患者のプライマリケア
- ・ 神経難病と地域連携 などが記載されていた。

その他、感想の自由記載では、

- ・ 心理的ケアには多職種連携がとても大切だなと感じました。
- ・ 患者さんの個別性を理解することの難しさ、大切さを再認識し、そこからいかにチームでケアに発展させていくかを大切にこれから考えていきたい。
- ・ 「病があってもやりたいことが自分の許容範囲でできればそれが健康」という考え方で私も患者さんに関わっていきたいと思った。難病にも緩和ケアが必要だということが明らかにされた。
- ・ 進行性の疾患を訪問リハで関わっているため、本人の心のケア、家族の心のケア、自分は何ができるのか、考えられることができて良かったです。死についても傾聴をして、動じない精神力を身に着けたいと思いました。

以上のような感想が記載されていた。



後藤清恵先生、花井亜紀子先生と記念写真

神経難病は完治できない疾患で生活に介護が必要となることが多く、経済的困窮を招きやすい傾向にある。その特性ゆえに神経難病のケアは緩和ケアと同様であると考ええる。第7回の講演会では患者や家族の心理状況を学ぶとともに実践的な関わり方について学ぶことができた。比較的若い世代が多いリハビリ業界ではリハスタッフが難病患者や家族の心理状態を把握しても対処できないことが少なくない。チームで情報共有を行い、同様の関わりを持つことが必要であることを学んだ。

第7回 北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会

私たちにもできる! 難病患者・家族へ寄り添う心理的ケア
～トップエキスパートに学ぶ基礎と実践～

開催日 2018年11月4日(日)

開演 10:00～13:00(開場9:30)

会場 西野学園 札幌医学技術福祉専門学校 3階講堂
 住所/札幌市中央区南5条西11丁目1289-5
 駐車場はありませんので、近隣の駐車場をご利用下さい

定員 200名 **対象** リハビリテーション、医療、介護に関わる職種および一般の方

申し込み不要
 参加費：無料

講演1 座長：加藤 恵子 (北祐会神経内科病院 作業療法士)

テーマ「難病患者・家族の心理的理解とケア、その考え方」

講師：後藤 清恵 先生
 国立病院機構新潟病院 臨床研究部 臨床心理・遺伝カウンセリング室長
 講演時間・10:10～11:25(質疑応答15分を含む)

講演2 座長：下川 満智子 (北祐会神経内科病院 看護師)

テーマ「難病患者の気持ちに寄り添う心理的ケアの取り組み」

講師：花井 亜紀子 先生
 国立精神・神経医療研究センター病院 医療連携福祉相談室 副看護師長
 講演時間・11:30～12:45(質疑応答15分を含む)

北海道理学療法士会 新人教育プログラム付与テーマC-1
 ・当日、会員登録不備等にて会員登録が確認できなかったものはテーマが認められません。
 ※開催当日までに、年会費を納入いただいております会員様は、単位の認定は致しませんが、予めご了承ください。

主催：一般財団法人北海道神経難病研究センター
 後援：札幌市、札幌市医師会、北海道臨床心理士会、北海道理学療法士会、北海道看護専門学校、北海道作業療法士会、北海道看護協会

問い合わせ 北海道神経難病リハビリテーション研究会(担当中塚) TEL:011-631-1161 FAX:011-631-1161
 E-mail: y-nakas@hokkaido-neurological-hosp.jp
 HP: http://www.hokkaido-find.jp

【神経難病に関わるセラピストの座談会】

- 第25回 平成30年5月22日「やっちゃう前に知るリスク」参加：4施設 33名
- 第26回 平成30年7月24日「貴方の患者さんはそれで満足ですか？」
 ～あなたはそれで満足ですか？～「」 参加：6施設 33名
- 第27回 平成30年9月20日「神経難病と運動器リハに切っても切れない関係
 ～お互いの顔を知ろう～ 参加：10施設 51名
- 第28回 平成30年11月27日「薬剤師とリハ職の切っても切れない関係」
 参加：17施設 44名
- 第29回 平成31年2月26日「パーキンソン病の症状から考える PT/OT/ST の関わり」
 参加：9施設 29名

【北海道神経難病ケースカンファレンス】

- 第15回 平成30年7月6日 参加：45名 報告：太田経介 北祐会神経内科病院
 「すくみからの脱却を目指したパーキンソン病の一症例～複数要因の現象的考察～」

2. 第 16 回 平成 30 年 9 月 11 日 参加：26 名 報告：多田拓人 北海道医療センター
「全身型抗 MuSK 抗体陽性重症筋無力症にステロイドミオパチーを合併した一症例」
3. 第 17 回 平成 30 年 10 月 25 日 参加：34 名 報告：小田柿糸子 北祐会神経内科
病院「他施設が介入した、在宅 ALS 患者における AAC 導入の難しさ」
4. 第 18 回 平成 31 年 3 月 11 日 参加：27 名 報告：小玉唯 北祐会神経内科病院
「ALS・PD 患者における呼吸リハビリテーション ～LIC トレーナーの使用経験から～」
5. 第 25 回 平成 30 年 5 月 22 日「やっちゃう前に知るリスク」 参加：4 施設 33 名
6. 第 26 回 平成 30 年 7 月 24 日「貴方の患者さんはそれで満足ですか？」
～あなたはそれで満足ですか？～」 参加：6 施設 33 名
7. 第 27 回 平成 30 年 9 月 20 日「神経難病と運動器リハに切っても切れない関係
～お互いの顔を知ろう～ 参加：10 施設 51 名
8. 第 28 回 平成 30 年 11 月 27 日「薬剤師とリハ職の切っても切れない関係」
参加：17 施設 44 名
9. 第 29 回 平成 31 年 2 月 26 日「パーキンソン病の症状から考える PT/OT/ST の関わり
参加：9 施設 29 名

(1) 第 6 回神経難病緩和医療研究会講演会

神経難病緩和医療研究会は6年目をむかえました。今年度のテーマはALS。
毎月 1 回の院内研究会では「非悪性腫瘍の緩和ケアハンドブック」(David Oliver
著 中島孝訳)を用いた抄読会を積み重ね、院外研究会の開催準備をすすめました。

院外研究会(第 6 回神経難病緩和医療研究会講演会)は 2018 年 3 月 9 日土
曜札幌医療リハビリ専門学校で開催しました。プロジェクトリーダーは馬道
氏(作業療法士)と香川氏(看護師)。今回のテーマは「ALS とともに生きる人の
人工呼吸器療法」。野中道夫先生、言語聴覚士の小田柿糸子先生、東京医学研究
所の中山優季先生の「人工呼吸器装着者の長期経過」の講演からなる研究会を企
画しました。内容はプログラムに記載された講演者の説明内容を添付いたしま
すので、ご参照ください



ALSと共に 生きる人の 人工呼吸器療法

入場無料
定員 200名
(申込不要)

～人工呼吸器を自分の一部にするために～

【日時】2019年 **3月9日(土)** 13:30 - 15:45 (開場13:00)

【会場】札幌医療リハビリ専門学校 9階会議室 (札幌市北区北6条西1丁目)

13:35-14:00

呼吸することが難しくなったらどうしたらいいのか
～マスクによる人工呼吸から気管切開による人工呼吸への移行～

【講師】 医療法人北祐会 北祐会神経内科病院 野中 道夫 先生



14:00-14:25

「伝える」をあきらめない
～人工呼吸器装着下のコミュニケーション支援～

【講師】 医療法人北祐会 北祐会神経内科病院 リハビリテーション部 言語聴覚士 小田柿 糸子 先生



14:35-15:40

人工呼吸器装着者の長期経過
～最悪伝達維持を目指した取り組み～

【講師】 公益財団法人 東京医学総合研究所 難病ケア看護 プロジェクトリーダー 中山 優季 先生



【主催】 北海道神経難病研究センター神経難病緩和医療研究会
【協賛】 札幌中央ファミリークリニック、静岡聖隷診療所、北祐会神経内科病院、札幌パーキンソンMS神経内科クリニック
【後援】 札幌市、北海道医師会、札幌市医師会、北海道看護協会、北海道難病連



北海道神経難病研究センター

本日は、第6回 神経難病緩和医療研究会 講演会にご参加いただき、ありがとうございます。

今回のテーマは、「ALSと共に生きる人の人工呼吸器療法」です。人工呼吸器を自分の一部にするためには、どのようにご家族や関わるスタッフが対応すると良いのかを、治療やリハビリ、ケアについて医師、言語聴覚師、看護師の視点からそれぞれお話をさせていただきます。

講演1では、「呼吸することが難しくなったらどうしたらいいのか」～マスクによる人工呼吸から気管切開による人工呼吸への移行～について、医師からお話いたします。ALSにおいて「呼吸することが難しくなる」ということを、最初から理解することは簡単ではありません。呼吸を補助する事がどうして大切か、どのような方法があるのか、どんな問題点があるのかを説明します。マスクによる人工呼吸の重要性と意義を示した上で、どうすれば後悔しない治療法の選択ができるか考えていきたいと思います。

講演2では、「伝える」をあきらめない～人工呼吸器装着下のコミュニケーション支援～について、言語聴覚士からお話いたします。ALSではどのようなコミュニケーションの問題が起こるか、代替りのコミュニケーション方法の種類や、それらをどのように選択すれば良いのかについて、実際の患者さんの導入例を紹介しながらお話をします。

講演3では、「人工呼吸器装着者の長期経過」～意思伝達維持を目指した取り組み～について、看護師からお話いたします。ALSの人工呼吸器療法実施者の経過観察から、意思伝達障害が進行してしまう方の特徴、ケアの重要性と意思伝達手段の取り組みについて紹介いたします。

今回の講演会で、ALSの患者様も、そのご家族も、関わる医療・介護・福祉の方も人工呼吸器について疑問が解決したり、ヒントを得ることへの手助けとなりましたら幸いです。

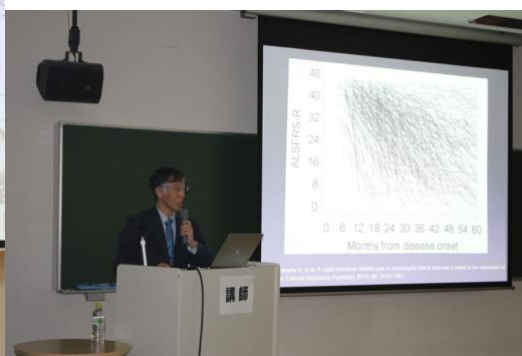
2019年3月9日
神経難病緩和医療研究会
代表幹事 武井 麻子

当日は快晴。参加者は119名で、内訳は医療従事者81名、福祉関係者10名、患者家族18名でした。アンケート結果では「とても満足」が76名、「まあまあ満足」が25名と大半をしめ、今後の希望としては「難病医療の進歩に関し

定期的に発信してほしい」「ALS 患者への麻薬の使用方法をききたい」「職業別の具体的介入方法」などがありました。



東京医学研究所の中山優季先生



北祐会神経内科病院野中道夫先生



北祐会神経内科病院小田柿糸子先生



プロジェクトリーダー馬道健弘先生



講演会場風景

最後に今年度の活動の問題点として、実際に担当した患者様に関する検討の機会が少なかったこと、院外講演会への当院職員の参加者が少なかったことがあげられますので、次年度の課題としたいと考えております。



神経難病緩和医療研究会メンバー